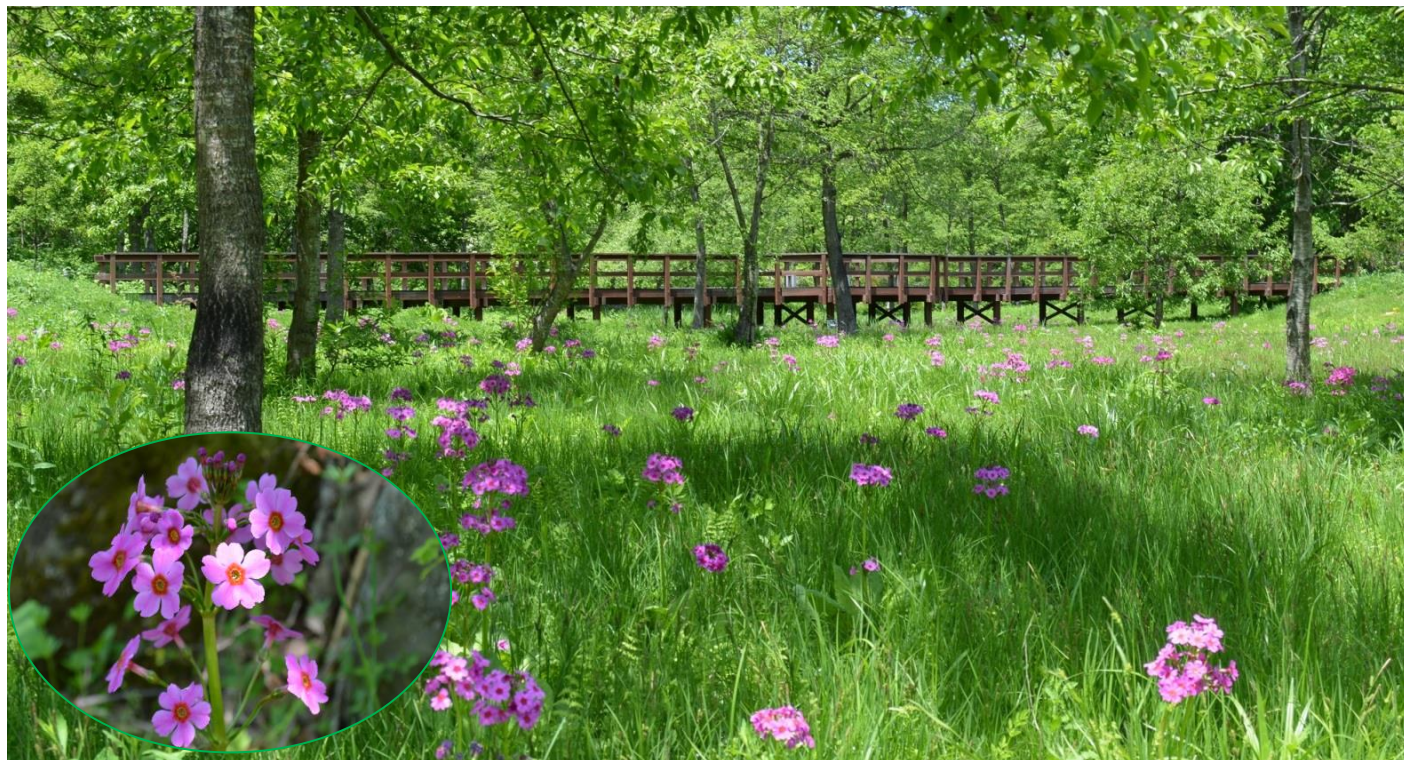


各 位

平成29年5月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「クリンソウの谷」に咲くクリンソウの花（前年の5月下旬撮影）

クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわが多いです。花が開く頃に花茎はぐんと伸び、紅紫色の花を2～5段輪状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ（九輪草）は寺院の塔の請花と水煙の間にある九輪に例えて名づけられたようです。

樹木や草花はたくさんの若葉をつけ、野草園は新緑の季節を迎えています。園内の南西側にある「クリンソウの谷」では紅紫色のクリンソウの花が咲き始めました。これから花茎を伸ばし、たくさんの花をつけていきます。近くには同じ仲間のサクラソウも咲き、谷一面がピンク色の花でいっぱいになります。一方、園内の「マグノリア通り」や「ツツジの丘」では、野生のツツジが咲き誇っています。ヤマツツジやシロヤシオ、サラサドウダンやベニドウダン等、たくさんのツツジがそれぞれの特徴のある花を見せてくれます。

広い野草園は、可憐な野草の花が所々に見られ鳥の鳴き声も聞こえてきます。新緑の樹木や草花の中を家族や仲間と一緒に歩いて、心と体をリフレッシュして下さい。

また、野草園内の自然学習センターでは、第23回写真コンテスト入賞作品展やエビネ展を行いますし、写真撮影会やエビネ・山野草の育て方教室も計画されています。是非ご参加下さい。

5月中旬から6月上旬の予定

◆6月第2月曜まで無休で開園します。

◆【ガイドウォーキング】

○日 時 5／13（土）、14（日）、20（土）、21（日）、27（土）、28（日）、
6／3（土）、4（日）

①10:00～11:00 ②11:00～12:00 ③13:00～14:00 ④14:00～15:00

○場 所 野草園内全域

○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もしてもらえます。

◆【エビネ展】 5／13（土）～5／21（日）

○内容・・・色彩豊かなエビネ約80鉢の展示

○場所・・・野草園自然学習センター内 ○参加費・・・無料（入園料別）

◆【エビネ販売】 5／13（土）、14（日）、20（土）、21（日）

○場所・・・野草園自然学習センターピロティ

◆【エビネの育て方教室】 5／20（土） 10時～12時 講師：ガーデン・アベ 阿部悌二郎 氏

○内容・・・エビネの鉢植え（実技）

○場所・・・野草園自然学習センターピロティ

○対 象 先着15名。 ○参加費 1,300円（材料代込、入園料別）

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【山野草の育て方教室】・・・6／13（火） 10時～12時 講師：蔵王園芸店 佐藤祐一 氏

○内 容 食べられる斑入り山野草の鉢植え（ギョウジャニンニク、アマドコロ、ユキザサ、シドケ）

○場所・・・野草園自然学習センターピロティ

○対 象 先着13名 ○参加費 2,000円（材料代込、入園料別）

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【第23回写真コンテスト入賞作品展】・・・5／27（土）～7／2（日）

○内容・・・28年度の写真コンテストで入賞した作品を展示。

○場所・・・野草園自然学習センター内 ○参加費・・・無料（入園料別）

◆【写真撮影会】 6／3（土） 10時～12時 講師：山形市写真連盟会長 軽部治悠紀 氏

○内容・・・一眼レフカメラの基本的な撮影技法を学び、実際に撮影する。

○場所・・・野草園内、自然学習センター ○持ち物 一眼レフカメラ

○対 象 一眼レフカメラの初心者 先着15名。

○参加費 100円（資料代込、入園料別）

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

●●●5月後半に見られる主な花たち●●●



クマガイソウ(ラン科)

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。名は袋状の唇弁を、源氏の武将熊谷次郎直実の母衣（ほろ）に見たてたものです。当時戦場では矢よけのためにふくらませた布製の袋（母衣）を背負ったのです。



アスマシャクナゲ(ツツジ科)

東北地方や関東地方など東国に分布するので、この名がつけられました。枝のさきに花芽が1個つき、そこから数個の花が咲きます。花は淡紅色の漏斗形で広く開き、先は5裂します。その下に葉芽が数個つきます。常緑の葉は革質で、裏面に灰褐色の真綿状の軟毛があるのが特徴です。



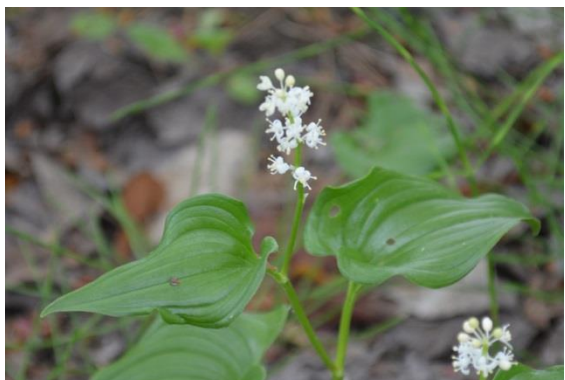
ヤマツツジ(ツツジ科)

北海道から九州まで広く分布して、日本人の多くに親しまれているツツジです。半常緑低木で、春にでて秋に落葉する春葉と夏から秋にでる夏葉があり、夏葉の多くは越冬するそうです。花の上面に濃紅色の斑点があります。花の色には変化があり、紅紫色や白色のヤマツツジもあるそうです。



ウラシマソウ(サトイモ科)

一見、マムシグサに似ていますが、肉穂花序の先端の付属体が釣り糸状に長く伸長して釣り糸に見えるのが特徴で、浦島太郎の釣り道具に例えての和名です。紫の花びらに見えるのは、肉穂花序を包む仏炎苞です。サトイモ科なので肥大する地下茎を作り、ある程度大きくなると雄株から雌株に性を変えます。



マイヅルソウ(キジカクシ科)

山地から亜高山帯の針葉樹林内に生える多年草で、葉の形は心形で先が尖り基部が深く葉脈が目立ちます。茎はまっすぐでなく、くの字に曲がりその先に白い小花の総状花序をつけます。大きく広げた2枚の葉の様子を羽に、総状花序を頭に見立てて、鶴が舞う姿に例え名がつけられたようです。



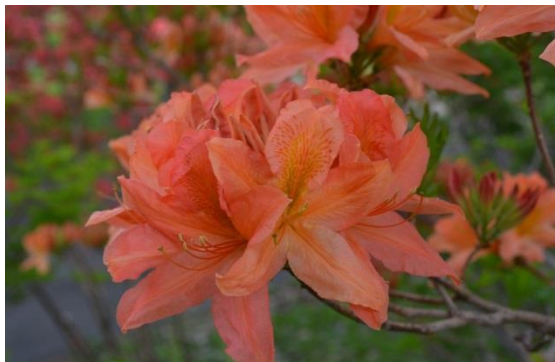
ウワミスザクラ(バラ科)

葉が開いた後に花が穂になって咲く（ブラシのようになって咲く）様子は、桜とは思えない感じです。穂（総状花序）の個々の白い花はサクラ的ですが雄しべが長く突き出ています。良い香りもします。似た仲間には「イヌザクラ」「シウリザクラ」があります。



サクラソウ(サクラソウ科)

山地の湿り気の多い所に生える多年草で、花が美しいのでよく栽培され園芸品種も多いです。葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます。名前はサクラに似ているからついたようですが、サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁は下がくっついていて筒状になっています。



レンゲツツジ(ツツジ科)

つぼみの様子をレンゲの花に見たてた名です。草原や林縁に生える落葉低木で、葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きいそうです。花びらの上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



ヤマブキ(バラ科)

細い茎が根元からむらがり立っています。枝は横にはり、春には緑色の細い小茎の先にヤマブキ色の5弁花を1個ずつ上向きにつけます。そして秋にはしっかりと実をつけます。古くは、山振（やまふき）という字があてられ、細くしなやかな枝が風に揺れる様子から名付けられたと言われています。



ナナカマド(バラ科)

山地の林縁などに生える落葉小高木で、公園や庭にも植えられています。葉は奇数羽状複葉で、秋には紅葉します。枝先に複散房花序を出し、白い5弁花を多数つけます。名前は7度かまどに入れても燃え残るということからつけられたようです。山形市のシンボルの木です。



ミツガシワ(ミツガシワ科)

氷河期には広く分布していたと推定される寒冷期の遺存種です。山地の沼や沢などに生える多年生の水草です。泥中に太い根茎があります。ミツバの紋章に似ているという、名のもとになった3枚の葉と並んで花茎を立て、白い小さな花を咲かせます。じょうご形の花をよく見ると、花びらに白い縮れた毛が密に生えていて、目を引きます。



オダマキ (キンポウゲ科)

日本原産のミヤマオダマキと、ヨーロッパなどが原産の西洋オダマキの2グループに大別されます。草丈は20-30cmで、それに対して西洋オダマキは、草丈70cmに達します。花の萼片の距は長く先は内側に巻いています。オダマキ(苧環)とは昔、つむいだ麻糸を巻いた道具で、それに花の形が似ているので名づけられたようです。



サラサドウダン (ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布するそうです。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。この更紗のような模様が名の由来になっているようです。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならないで先が広がり鐘形のところが違います。



オドリコソウ (シソ科)

ヨーロッパ原産のヒメオドリコソウにおされて存在感のなくなったような本種ですが、しっかり咲いています。東アジアの温帯に広く分布し山野や道ばたの半日陰に生える多年草です。葉のわきに淡紅紫色または白色の花を数個輪生します。名は花の形が笠をかぶった踊り子の姿に似ていることによるようです。よく見るほどに踊り子を連想させます。



ホタルカスラ (ムラサキ科)

乾いた草地や林縁に生える多年草です。小さい花ですが、ムラサキ科の中では一番大きいそうです。蛍光を発しているような青い色は遠くからでも目立ちます。そこから、ホタルの名がつけました。花が咲いている時はカズラの意味はわかりませんが、花後に根もとからつるが出てきて新しい株をつくります。それで、この名があります。



キタマムシグサ (サトイモ科)

高原～山地の林床などに普通に生える高さ30～80cmの多年草。従来、コウライテンナンショウと呼ばれていた植物ですが、仏炎苞の舷部がよりヘルメット状に膨らみ、白糸が広がって半透明になるという形質で区別できます。本園では、いろいろな場所の林の中に生えているので、注意して見ると誰でも、“蛇に似た姿”を見つけることができます。



トチノキ(ムクロジ科)

落葉高木で主に冷温帯域の山地に生育し、高さ 30m ほどの巨木に成長することもあります。葉は大きく、5～7つに掌状に分かれており、天狗の団扇と呼ばなくなる形をしています。白い大型の房状花序を付けます。花はとても甘い香りがし、果実のトチの実は、餅に使われたり、トチ笛などの工作の材料となります。



ラショウモンカズラ(シソ科)

雑木林や林の縁などに生育する多年草です。太い筒状の紫色の唇形花を、横向きに数段つけます。花冠の長さは4～5cm で、シソ科の植物としては大きな花です。下唇には模様が見られ、白い毛が密生します。名は花の形が羅生門で切り落とされた「青鬼の腕」に例えてつけられたと言われています。



ヤマシャクヤク(ボタン科)

林の斜面などに生育する多年草です。葉は2回3出複葉で、両面とも無毛で柔らかいです。白い花は完全に開かず花弁は5～7枚、雄しべは多数でやくが黄色、雌しべが3本で柱頭が赤黒いです。3～4日で花は散ってしまいます。名は山に生え全体がシャクヤクに似ているからです。ヤマシャクヤクも減りつつある植物の1つです。



アイスシモツケ(バラ科)

山地の明るい岩場や林の縁に生える低木で、樹高は1m前後です。葉は広い卵形で深い重鋸歯があることが特徴です。花は白色で花弁は5個で円形、雄しべは花弁より長く目立ちます。名は会津で発見されたシモツケなのでつけられたようです。白いのので別名シロバナシモツケともいいます。



フデリンドウ(リンドウ科)

山野の日当たりのよいところに生える小さな2年草です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。名は、茎の先につく花のつぼみ（正確には花が閉じたとき）の形が筆の穂先を思わせるところからつけられたようです。